

黒部を未来へつなぐ



< ご挨拶 >

先ずは皆様のおかげで、2期目の任期4年の折り返しである2年を経過し、6年間働かせていただいたことに感謝いたします。

さて、コロナ禍によって私たちの暮らしが大きく変わり、密集密接を避け、換気、マスク着用、消毒、ソーシャルディスタンスが当たり前の中になりました。

経済が停滞し、今までの生活と違う状況や、未来に見通しが持てない状況に不安を感じている方が多くいらっしゃるのではないのでしょうか。

感染拡大防止対策と地域経済回復の両立という難しい状況を迎えていますが、

こんな時だからこそ、スポットライトの影の部分に光を当て、いのちと暮らしを守る取り組みを進めていきます。

今回も6月と9月議会の質問を掲載しましたが、どんな黒部市にしたいのか

自分自身の考え方の背景を分かってもらえるのではとの思いで質問趣旨を中心に掲載しました。

黒部を未来へつなぐ
成川まさゆき



黒部は今、分岐点！ 先人の努力を次世代へつないでいきたい。



なりかわ

成川まさゆき

facebookで活動公開中！

【令和2年6月定例会 質問】

「働き方改革について」

私たちの生活の中に、コンピューターが無くてはならないものになりました。黒部市役所においても例外なく、業務において不可欠なものとなり、特に近年のIT・ICTの進展により、職員の働き方が大きく変化したのではないかと思います。

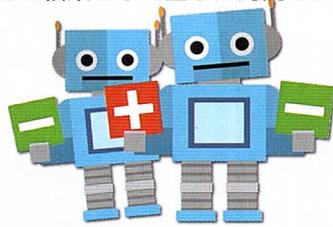
でも、どんなにコンピューターが発展して便利になっても、最終的には人と人とが、顔を向き合って対話する「フェイス to フェイス」が基本であり、これからより大切になってくる時代になると思っています。

しかし、現状は職員の視線が来庁者である市民に向いているので

は軽減されるかもしれませんが、人口減少や働き方改革で、定員や仕事量を増加することは、現状では困難と考えます。

そのような現状から、期待されているのは、AI（人工知能）やRPAと呼ばれるソフトウェアロボットの導入です。パソコンにデータ入力する日々の業務管理等の単純な業務を「機械」つまりロボットに任せて、職員の負担を軽減する。その結果として生じた時間を、市民に対応する時間として使う事で、より質の高い市民サービスが出来るのではと考えます。

そしてもう一つが、アウトソーシング。外部委託です。今まで庁内ですべて処理していた業務の一部、ま



はなく、パソコン画面に向いている事が多くなっていないでしょうか。

近年において、課題・問題が多様化し、且つ、複雑化してきているにも関わらず、大切である直接会って対話する事が段々と減少してきているのではないかと危惧するところ



です。市民に、より丁寧な対応が求められているにも関わらず、市民に直接かかわる業務では、業務量が増加し、マンパワーが不足。職員数の増員や時間外勤務をすれば、少し

たは全部を外部に委託することで、先ほどと同じく職員の負担を軽減出来ると考えます。

それらは、外部を変えるのではなく内部の考えや仕組みを変える事です。外部を変えるのは難しいですが、内部を変えるのは、変えようと思うかどうか、実行するかどうかです。

市民サービスの向上とは、単純に窓口における手続きの円滑化をするのではなく、多様化する市民ニーズに的確に伝えていくことだと思います。

そのためには、業務を効率化して職員の負担を軽減し、その結果として生じた時間を、市民に対応する時間として使うことで、市民サービスの向上、より質の高い市民サービスに繋げていけるのではないのでしょうか。

【問】「定員適正化計画等に基づく職員数等の状況と取組の成果」について

【答】今年度からは、これまでの総務課の一元管理から各課の適時管理を取り入れることで、時間外勤務の抑制意識の醸成につなげたい。

【問】RPA、AIの利用について

【答】昨年度実施した4業務の検証を行った結果、年間840時間、73%の業務量の削減効果があった。今年度からは本市単独で成果の検証と業務範囲拡大を検討する。

また、AI（人工知能）は、現時点で、導入には至っていないが、費用対効果を見定め、導入に向けて検討していきたい。

【問】『アウトソーシング』、（業務の外部委託）の考え方について

【答】可能な業務を整理し、導入を検討していく。

【問】次期定員適正化計画に向けて目指す働き方について

【答】近年は、業務が複雑かつ多様化するとともに業務量も増大しており、一部の部署において適正な人員配置とはなっていない。業務の効率化と簡素化を踏まえつつ、真に必要な職員数について見極めていく。



「未来につなげる地域づくりについて」

人口減少、少子高齢化が進んでいます。地域の振興会・町内会などの各種団体の組織運営があと何年続くのか。次世代に繋いでいかないと、地域の活動人口が減少し、気づいたときには「あとの祭り」となってしまう心配です。

そうならない為には、住んでいる地域の事を理解し、自ら課題を見つけ出し、解決していく仕組みづくり等、自立した地域を作る事が重要だと考えます。

現在の地域活動を見ると、防犯、防災、福祉、生涯学習など多岐に渡っています。組織としては、防犯から地区安全まちづくりセンター、福祉から地区社会福祉協議会、社会教育から公民館、防災からは地区自主防災会などがあり、各公民館には「まちづくり推進員」と

「公民館主事」という肩書を持った方が常駐しています。公民館長、自治振興会長、地区社会福祉協議会会長、その他にも防災・防犯など、課題によってトップが違うのもわかりにくく、予算的にも出所もバラバラで、それらを統一したほうが分かり易いのではないかと思います。



また、公民館の役割も町内会で自主的に持っている自治公民館と教育委員会管轄で活動に法の縛りがある地区公民館も、運用方法が混同しやすく、場所によって解釈が違うので、サークル活動でも利用しやすいところ集まっているという声も聞こえて



皆様のご意見をお気軽に是非、お寄せください

後援会
連絡先

成川正幸（なりかわ まさゆき） TEL (0765)57-1189
黒部市植木 107-7 FAX(0765)57-1189
携帯 090-1317-7155 Mail : masa.narikawa@gmail.com



きます。法の縛りがある事を地区役員でさえ知らないところもあるではないかと思っています。あるところでは良い、あるところでは駄目という不公平さがあるのであれば、地域の拠点施設として、より地域活動に活用できるように、利用上の制約を緩和したほうが公平です。そして、それらを管理する市も私たちの住む地域の課題を解決するために、人口減少、少子高齢化という社会環境の変化を受けて、全庁的な取り組みが必要であり、様々な地域資源との連携も必要となってきたことから教育委員会ではなく、市長部局管轄にした方が動きやすいのではないかと考えます。

また、運営に関しても地域ごとに課題や考え方が違うので、指定管理者制度を導入し、「自治振興会」にコミュニティセンターの運営を委託すると同時に、これまで各所が事業ごとに計上する補助金ではなく、自主財源も利用しながら、地域の実情に応じて、自らが判

断し、責任をもって使い道を決めることが可能な包括的な交付金制度を導入してはどうかと思います。

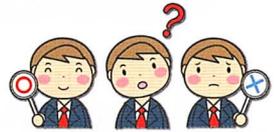
(問) 公民館運営に関する本市の考え方について

(答) 魅力ある地域の活動拠点となるよう取り組んでいる。

(問) 地区公民館のコミュニティセンター化について

(答) 庁内に各関係各課による協議の場を設置し、地域の関係者の意見を聴いて、検討を開始したい。

その他、「コロナ禍での経済・観光の影響について」「危機管理体制について」「シアター・オリックスとジオパークについて」の質問を致しました。



【かわら版 9 月定例会】

「幼稚園・保育所 施策について」

質問に至った経緯として、

- ①人口減少・少子化の進展。
- ②令和元年 10 月から幼児教育・保育の無償化開始してから 1 年間の検証。
- ③令和 5 年、石田こども園の民営化と同時に幼保連携型認定こども園になる。



- ④大布施保育所は建て替えと同時に幼保連携型認定こども園になる。
- ⑤黒部愛児保育園は、改築し令和 3 年度から 4、5 歳児の入園可能になる。
- ⑥前沢保育所 10 年、下立保育所と若栗保育所 14 年の残存耐用年数が迫り、修繕・改修か建て替えか、さらには再編かの判断をする計画策定の時期が近づいている。

以上の事から今後、本市における幼稚園・保育所の在り方が大きく変わってくることが予想されることから質問しました。

(問) 石田、生地に加え、大布施保育所が子ども園になるが、子ども園に対しての本市の考えを伺う。

(答) 施設改修のタイミングなどを捉え、こども園への移行を検討する。

(問) 幼稚園、保育所の定員・在籍園児数

(答) 令和 2 年 9 月 1 日現在 (人)

(問) 大布施保育所と石田こども園が同時期に整備され、人材の確保という点で苦戦すると思われる。もし人材確保が出来なかったら開園が遅れる事も考えられるが、本市の考えを伺う。

(答) これまで民営化を進めてきたノウハウもあり、保育を引き継ぐための職員確保など、運営法人と協議を重ねながら対応していく。

(問) 幼稚園と保育所の提供区域は市内全域となっているが考え方を伺う。

(答) 今の募集方法で概ね希望に沿った施設への入所がなされていると考えている。

区分	定員	在籍数
幼稚園 3 園	220	62
保育所 1 4 所	1485	1347

実績値は計画値に対し、少ない状況にある。

(問) 保・幼・小・中学校の計画が連続している必要があると考える。本市の考えを伺う。

(答) 施設の改修、改築は、総合振興計画及び公共施設再編計画に基づきながら、計画的に整備を進めたいと考えており、今後も集団としての保育が成り立つかを指標に、施設の老朽化、入所児童数の推移などを注視しながら、必要に応じ、議会や地域、子育て世代の意見も伺っていく。



その他、「公共交通を活かしたまちづくりについて」の質問を致しました。

なりかわ 黒部市議会議員 成川まさゆき



facebook®で 活動公開中!



統計から見る黒部

私たちが生活する黒部市は、北陸新幹線の駅や国道8号線バイパスが開通し、人の出入りや交通量も以前より増えたように感じます。黒部市発行の「統計黒部」（平成21年度・平成30年度）から一日の数が10年間でどんな風に変化してきているのか見てみました。出生数が減少し死亡数が増加しています。交通人身事故や刑法犯罪が減少していますが、救急車出動が増えています。地鉄電車利用者数は新幹線開業で新黒部駅が出来て、利用者が増えました。

～黒部の一日～



出生 H21 : 0.96 人 H30 : 0.71 人 	死亡 H21 : 1.19 人 H30 : 1.27 人 	転入 H21 : 3.16 人 H30 : 3.4 人 	転出 H21 : 3.57 人 H30 : 3.54 人 	婚姻 H21 : 0.48 件 H30 : 0.38 件
離婚 H21 : 0.16 件 H30 : 0.15 件 	交通人身事故 H21 : 0.41 件 H30 : 0.23 件 	救急車出動 H21 : 3.18 回 H30 : 4.13 回 	火災 H21 : 0.011 件 H30 : 0.014 件 	刑法犯罪 H21 : 0.58 件 H30 : 0.4 件
地鉄電車利用者数 H21 : 3,981 人 H30 : 4,004 人 	あいの風とやま鉄道 (JR)利用者数 H21 : 4,375 人 H30 : 3,693 人 			



まさゆき mini 見聞録

KENBUNROKU



子どもの権利条約フォーラム研修



ホームレス自立支援「小さな泉の村」



黒部市役所フードドライブ



なりかわ facebook で活動公開中！
成川まさゆき



なりかわ
成川まさゆき後援会

〒938-0014 富山県黒部市植木 107-7
 TEL & FAX (0765) 57-1189
 Mail/masa.narikawa@gmail.com